

保育所保育実習における実習記録

—「毎日の記録」様式作成の経緯と「毎日の記録」様式改正の試案—

栗山陽子

I. はじめに

名古屋経営短期大学子ども学科は、2007年（平成19年）4月に新設学科として認可された。保育士資格と幼稚園教諭2種免許が取得できる男女共学3年制課程の短大である。保育者養成の短大がほとんど昼間2年制課程であった中で、愛知県下初の昼間3年制課程を取り入れた。

その新学科設置にあたり、当子ども学科は、時代的背景を以下のように述べている。^(注1)

「少子高齢化、核家族化、単数家族化、都市化、男女共同参画に伴う女性の社会進出等で子どもを取り巻く社会的、文化的、生物的環境が大きく揺らぎ、子育て環境は複雑化し、悪化している。こうした状況下で保育・幼児教育への要求は多様化、深刻化し、特別支援教育や乳児保育への需要を始め、乳幼児期の保育全般への需要が増加している。これらの諸課題は、現代社会のニーズとなって保育所保育に求められ、保育所の機能拡大が進んで保育が高度化・専門化し、これらに対応できる力量を持った保育士の養成が急務となっている。」と。

これら時代の要請に応えるために、当子ども学科は、175単位のカリキュラムを組んで、昨今の学生層に欠けている社会・生活・自然体験を取り入れた科目を始め、「人間力」「保育力」を涵養する科目も多く取り入れ、3年間で「保育士の資質」を確保することを目指した。

保育士養成校としてこのようなスタート切った当子ども学科では、保育実習計画においても、既存の短大保育士養成校の実習計画を参考にしながらも、3年間という期間を活かした実習段階と期間設定をするなどの独自性を図った。従って、その保育実習計画に基づき行う保育所実習で使用する実習記録（日誌）においても、独自性を図ることとなった。

本研究は、独自性を持たせた実習記録（日誌）が出来上がった中で、「毎日の記録」の様式について、①その作成経緯と使用上の説明をしたもの、②「毎日の記録」使用後の若干の評価を明らかにしたもの、③次なるステップを目指すために、他の保育士養成校の実習記録を収集して参考にしながら、全国保育士養成協議会の「ミニマムスタンダード」^(注2)も踏まえて、「毎日の記録」様式の改正の試案を提示したもの、以上の3点について現時点でまとめたものである。

Ⅱ. 保育所保育実習における実習記録

1. 実習計画

実習計画は、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得に必要な実習を、3年間のどの時期にどのように配置するかを決めた計画である。

(1) 保育所保育実習1週間

1年生の11月に、地元尾張旭市公立保育園で、観察中心の保育実習を1週間行う。

(2) 保育所保育実習3週間

2年生の5月下旬～6月に、学生の居住地に近い保育所（園）で、観察・参加・責任保育実習を3週間連続で行う。

(3) 施設保育実習10日間（宿泊の場合は、1週間）

2年生の10月～12月に、保育所（園）を除く、児童福祉施設で、観察・参加保育実習を1週間～10日間行う。

(4) 幼稚園教育実習4週間

3年生の6月に、学生の居住地に近い幼稚園で、観察・参加・責任教育実習を4週間連続で行う。

実習計画における3年制を活かした独自性の一つ目は、保育実習において、地元尾張旭市の協力を得て実現した、1週間の観察中心の保育所（園）実習である。これを1年次後期に配置した。

二つ目は、保育実習Ⅰ（保育所）の1週間と保育実習Ⅱの2週ンを合わせて、連続で3週間の保育所（園）実習としたことである。これを2年次前期に配置した。

施設実習は、2年次後期に配置し、幼稚園教育実習は、3年次前期に配置した。

この実習計画により、実習を履修していく学生にとっては、観察実習から責任実習へ向かって、段階を踏み、時間をかけて学ぶことができる。また、実習先も保育園→施設→幼稚園と進むので、実習経験が効果的に活かされる等のメリットが期待でき、3年前の子ども学科設置認可にあたり、厚生労働省に、この実習計画が認められたことは、大変有り難かった。

2. 保育所保育実習記録様式作成の経緯

保育所保育実習については、前述の通り、実習をより段階的に、より効果的に進めるために、これまでにない独自の設定にしたが、この1年次の1週間と2年次の3週間の実習期間に見合う保育所保育実習記録様式も独自のものを作成することとなった。

保育所保育実習記録様式作成に当たっては、愛知県保育士養成協議会傘下の数ヶ園の保育所実習記録を参考にしたが、以下の点を考慮した記録様式にすることを念頭に置いた。

(1) 実習記録は、日誌的な役割を持ち、実習生にとっては、実習の足跡を残す意味がある。

保育所保育実習における実習記録

一方、受け入れ側の指導者にとっては、何を観察し、どのように学んでいるかについて、記録を通して知る手だてとなる。これらのことが達成できるシンプルな様式にする。

- (2) 保育実習Ⅰ（保育所）に加えて、保育実習Ⅱが選択必修となってから、10年が経過しているが、全国保育士養成協議会作成の保育実習指導の「ミニマム・スタンダード」による実習の評価同様に、実習記録においても実習段階に見合った様式にする必要がある。
- (3) 近年、実習記録の記入に関して、実習生と受け入れ側の指導者の双方から、負担感が大きいとの声が上がっている。これらの声は、愛知県保育士養成協議会が行う前年度の実習反省会（養成校と保育園側の代表が出席する）で、毎回のように出されている。従って、双方の負担感を軽減する様式にする。

3. 保育所保育実習記録様式と使用上の説明

・シンプルな様式にする ・実習段階に見合った様式にする ・実習生と受け入れ園の双方の負担感を軽減する、の3点を考慮して作成した保育所保育実習記録（毎日の記録）様式と使用上の説明は(1)図1～(4)図8の通りである。

- (1) 実習記録様式① …… 図1、図2
- (2) 実習記録様式② …… 図3、図4
- (3) 実習記録様式③ …… 図5、図6
- (4) 実習記録様式④ …… 図7、図8

(1) 実習記録様式① 図1 表面

実習記録（観察実習） 様式① 名古屋経営短期大学 子ども学科 氏名

月	日	曜日	天候	行事・その他特記事項			
担当者氏名		組名	年齢	男児 名	女児 名	計 名	氏名
主な活動							
プログラム		子どもの活動		保育士の援助・関わり			

使用上の説明（図1）

- ・1週間の保育所保育実習において使用する。
- ・保育所（園）で、日々営まれている保育を、プログラムの流れに沿ってしっかり観察し、こどもの活動（様子）と保育士の援助や関わり方を記録する。
- ・「主な活動」には、週案で押えられているその日の主活動を、実習生が観察して感じ取った活動として、実習生自身に分かるように記入する。

実習記録様式② 図2 裏面

今日 の 反 省		明日 へ の 課 題
自由 記 述	担当者印	

※基本的には押印のみで結構です、何かお気づきの時にご利用ください

使用上の説明 (図2)

- ・様式①の表面の続きとして、降園までのプログラムに沿った保育の実際を記入する。
- ・「今日の反省」には、1日の実習を振り返って、主体的に実習ができたか、子どもとの関わりで反省点はどんなところかを記入する。
- ・「明日への課題」には次の日の実習の目標を含め、今日の反省点から出てきた課題を明記する。
- ・指導者の所見覧を「自由記述」とし、記録を読んで検印して貰うことに重きを置いて、指導者の自由裁量とする。

(2) 実習記録様式② 図3 表面

実習記録 (観察実習) 様式② 名古屋経営短期大学 子ども学科 氏名

	月	日	曜日	天候		行事・その他特記事項
担当者氏名				組名	年齢	男児 名 女児 名 計 名
観察記録 (設定保育・園外保育・外遊び・室内遊び・給食・昼寝等の様子を観察して思ったこと、感じたこと)						

保育所保育実習における実習記録

実習記録様式② 図4 裏面

今日の反省	明日への課題
担任所感	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">担当者印</div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">※観察記録の内容に対してのご指導をお願い致します</p>

使用上の説明（図3、図4）

- 1週間保育所保育実習で使用する。
- デイリープログラムに沿った記録を様式①で初日から2日目まで使用した後に、3日目に使用する。
- 1日の保育実習の中の様々な保育の場面で、観察を通して、子どもと関わって気づいたことや子どもの同士のやり取り様子、保育士から学んだことなどを丁寧に記述する。
- デイリープログラムに添った保育の実際を細かく記述することに比べ、自分が観察して感じたことを記述するので、観察のポイントを絞っておく（前日の「明日への課題」の覧に観察ポイントを記入しておくが良い）。
- 土曜日の保育は、合同保育で自由保育の形態がとられていることが多いことから、この様式を使用する。
- 担任「所見覧」に、指導、助言等を記入して貰う。

(3) 実習記録様式③ 図5 表面

実習記録(観察実習) 様式③ 名古屋経営短期大学 子ども学科 氏名

月	日	曜日	天候	行事・その他特記事項		
担当者氏名			組名	年齢	歳児 幼児	名 計 名
主な活動						
プログラム		子どもの活動		保育士の援助・関わり		

使用上の説明(図5)

- ・3週間保育所保育実習の1週目に使用する。
- ・3週間保育所保育実習の1週目は、各クラス(年齢)に入り実習することが多いことから、そのクラスで営まれている保育を、プログラムの流れに沿ってしっかり観察し、こどもの活動(様子)と保育士の援助や関わり方を記録する。
- ・「主な活動」には、週案で押えられているその日の主活動を、実習生が観察して感じ取った活動として、実習生自身ができるように記述する。

実習記録様式③ 図6 裏面

感想・反省	
自由記述	担当者印

※基本的には押印のみで結構です、何かお気づきの時にご利用ください

使用上の説明(図6)

- ・様式③の表面の続きとして、プログラムに沿った保育の実際を簡潔に記入する。
- ・「感想・反省」覧に、その日の観察・参加実習で気づいたこと、学んだこと、反省点等を記述する。
- ・指導者の所見覧を「自由記述」とし、記録を読んで検印して貰うことに重きを置いて、指導者の自由裁量としている。

保育所保育実習における実習記録

(4) 実習記録様式④ 図7 表面

実習記録 様式④ 名古屋経営短期大学 子ども学科 氏名

月	日	曜日	天候	行事・その他特記事項			
担当者氏名			組名	年齢	歳児 女児	男児 女児	名 計 名
主な活動							
プログラム		環境構成		子どもの活動		保育士の援助・関わり	

使用上の説明 (図7)

- ・3週間保育所保育実習の2週目以降に使用する
- ・配置クラスのデイリープログラムに沿った保育を「環境構成」→「子どもの活動」→「保育士の援助・関わり」の流れを押さえて記述する。
- ・紙面に限りがあるので、その日の主活動を中心に据え、上記の流れで詳しく丁寧に記述することが、部分実習・責任実習をする上でも望ましい。

実習記録様式④ 図8 裏面

感想・反省	
所 見 欄	
	担当者印

使用上の説明 (図8)

- ・実習は、保育実習Ⅱの段階に入っているため、「感想・反省」覧には、保育全般に参加して感じたこと、保育士から学んだ保育技術のこと、職員の役割分担のこと、保護者や地域の様子、子育て支援について見聞きしたこと等幅広く実習で学んでいることを記述する。
- ・「所見欄」には、担当保育士の指導・助言等を記入して貰う。

4. 保育所保育実習記録様式に対する評価と反省点

現在の2年生と3年生が、1年次と2年次において、様式①～様式④を実習段階に応じて使用した。

当子ども学科においては、実習の全ての取り組みが初めてということで、実習事前指導に当たっても不十分なまま実習に突入してしまった感があり、学生の一部に、記録様式のそれぞれの特徴を理解しないまま記入しているという実態があった。それらを踏まえた上で、学生については、実習後のアンケート調査や実習記録集（日誌）に書かれた実際から、また、実習受け入れ園については、保育所保育実習記録様式について直接説明した際の反応と自由記述覧の利用状況の実際、さらに実習記録に対する意見等から初めて作成した保育所保育実習記録様式に対する若干の評価と反省をあきらかにした。

(1) 学生

① 1週間保育所保育実習（第1学年）

- ほとんどの学生が実習記録を遅れず提出できた。
- 記述内容の不充分さはあるが、量的に書けている学生が多かった。

② 3週間保育所保育実習（第2学年）

- 初日から徐々に書く量と内容が増えていった。
- 環境構成覧は、実習に馴れてからの記入だったので、思ったより書けた。
- 後半になるに従って、指導の朱ペンが少なくなった学生が多かった。

(2) 実習受け入れ園の指導者の声

① 1週間保育所保育実習

- まだ1年生で観察中心の実習だから、実習記録の内容もそれに相応しいかどうかを見た。
- 自由記述覧は、馴れていないので、つい今まで通りに書いてしまったが、気持ちは楽だった。
- デイリープログラムの記入については、間違いがあるといけないので、よく見て指導を加え、自由記述覧は押印のみとした。

② 3週間保育所保育実習

- 実習記録用紙の説明を聞いて、保育現場への配慮が感じられとても嬉しく思った。
- 実習記録用紙は、各養成校様々で、現場では保育士が苦勞している。
- 毎日の記録の中に、その日の実習の目標（ねらい）があると良い。
- 毎日に記録の中の、「子どもの活動」は相応しくない。「子どもの姿」とした方が良い。
- 実習記録①の自由記述覧は、押印のみとし、日々の実習の中で口頭で伝えた。

以上のことから、初めて作成した実習記録様式の若干の評価と改善点としては

保育所保育実習における実習記録

- ・学生と指導者双方にとって、書く量が少なく、わずかな負担感の軽減になった。
- ・実習の初参入で、実習先に実習記録様式の意図を充分説明しきれていなかった。
- ・毎日の実習の目標（ねらい）は、大切なので、項目に加える。
- ・「子どもの活動」については、学生が観察したありのままを記入する。子どもの様子としては、姿（態度・ありさま）よりも、活動（元気に行動している）の方が分かりやすい。

5. 愛知県保育士養成協議会傘下の短大で使用している保育実習記録の実際

愛知県下の短大保育士養成校 10 校に保育実習記録（冊子）の提供を依頼し、8 校から提供を受けた。8 校の保育実習記録を参考にすることに当たって、以下の 3 点についてどのような様式で作成されているかを比較検討した。（表 1）

- ① 保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱの実習記録様式は違っているか
違っている場合、どこが違っているか
- ② 毎日の記録に実習の目標（ねらい）が入っているか
- ③ 観察・参加実習記録項目「子どもの活動」と「子どもの姿」は、どちらが使われているか
- ④ 学生が書く記録の広さはどれくらいか
- ⑤ 指導者が書く指導の覧の広さはどれくらいか

表 1 愛知県下保育士養成校（短大）8 校の実習記録様式の比較

学校名	①実習ⅠとⅡ	②実習の目標	③項目の表現	④学生記録欄	⑤指導者欄
A	同じ	無	乳幼児の活動	250 字	180 字
B	同じ	有	子どもの姿	425 字以上	無し
C	同じ	有	子どもの生活と活動	140 字	110 字
D	同じ	有	子どもの姿	325 字以上	150 字
E	同じ	無	指定しない	370 字	125 字
F	同じ	有	子どもの活動	225 字	125 字
G	同じ	無	子どもの活動	250 字	100 字
H	同じ	無	子どもの活動	260 字	150 字

* 表内の字数は、25 文字×行数で計算した文字数を表している。 * 「以上」は、余白が設けてある所

〈考察〉

- ① 保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱの記録様式は、8 校すべてが同じであった。

「保育実習指導のミニマムスタンダード」によれば、「養成校では、保育実習Ⅰと保育実習Ⅱには、明らかに実習の継続性と段階制を意識した内容が盛り込まれており、その差別化が意識されていることが伺えた」と述べられていたが、調査研究から 5 年が経過した現在で、実習記録様式については、継続性と段階制が反映されていないことが分かった。

しかし、実習記録冊子を提供して貰った養成校に、アンケートを取っていないので、同じ記録様式を使って使用上で区別をしているのか、これから変更する意志を持っているのかは、判

断できない。

- ② 実習の目標（ねらい）については、「有」が4校、「無」が4校の同数だった。「有」の様式を参考にしたいと考えている。
- ③ 項目の表現で、「子どもの活動」か「子どもの姿」かについては、各養成校の実際を挙げてみたが、「子どもの姿」は2校だけで、「指定しない」を入れて6校が「子どもの活動」となっていた。この点でも、養成校にアンケートを取っていないので、筆者と同じ意図で、「子どもの活動」としているのかどうかは、判断できない。他校の数も多かった「子どもの活動」をそのまま使いたいと考えている。表1には載せなかったが、指導計画案の項目では、「予想される子どもの活動」になっているものが5校あり、「予想される子どもの姿・活動」がB校、「予想される子どもの姿」がD校となっていた。指導計画案の項目においては、B校と同じく「予想される子どもの姿・活動」が相応しいと考えている。
- ④ 指導者に記述して貰う「所見」欄のスペースについては、一番広がったのが180文字で、一番狭かったのが100文字であった。その差は、80文字で、たいした違いではないように思えるが、指導者側の負担感という点では、わずかな違いにも、敏感に反応する保育士さんがいるのも事実である。
- ⑤ 学生が記入する欄のスペースについては、一番広がった425字以上のB校の3分の1が一番狭い140字のG校であった。250字前後も4校あり、学生への配慮が感じられた。

Ⅲ. 保育所保育実習記録様式の見直し

1. 実習期間と実習時期の変更について

平成21年2月27日付け厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知^(注3)が出された。その内容は、「保育実習を行う時期は、原則として、修業年限が2年の指定保育士養成施設については第2学年の期間内とし、修業年限が3年以上の指定保育士養成施設については修学年限が第3学年以降の期間内とする」というものであった。これまでは、「保育実習を行う時期は、原則として第2学年の期間内とし、修学年限が3年以上の夜間部、昼間定時制部又は通信教育部については、第3学年の期間内を原則とする」（「」内は、下線を含め原文通り）となっていたので、昼間3年制の当子ども学科においては、開設時には、1年次1週間保育所実習と2年次3週間保育所実習が認められたが、今回の改正で、修業年限が3年以上の指定保育士養成施設が明記されたことにより、実習時期を第3学年に見直さなければならなくなった。（ の下線は筆者が添付）

そこで、当子ども学科は、21年度入学の学生から、最終学年で保育実習を行うように実習時

期を変更する。

当子ども学科は、第3学年には履修科目が少ないことから、次のように実習計画案を立てた。

- ① 保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱを、第3学年前期（5 Semester）に連続して2週間＋2週間で実施する。
- ② 実習の継続性と段階性をより効果的に発揮できるよう、同じ園で実習することを希望していく。
- ③ 実施時期については、保育実習Ⅰ（保育所）を5月末から2週間実施し、保育実習Ⅱを1ヶ月後の7月初旬から2週間実施する。
- ④ 保育実習Ⅰ（施設）は、第3学年後期（6 Semester）で実施する。

尚、保育実習時期の変更に伴って、教育実習を3年次前期（5 Semester）から2年次（3及び4 Semester）に変更する。

これらに伴い、すでに21年度後期から、教育実習に必要な履修科目のSemester変更と時間割変更を行った。また、22年度の履修科目と時間割についても、保育実習時期の変更に伴った配置が予定されている。

2. 保育所保育実習記録（毎日の記録）様式の改正について

保育所保育実習の期間・時期を2週間と1ヶ月後に2週間と定めたことにより、保育実習の継続性と段階制を「ミニマムスタンダード」に学び、保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱをさらにしっかり位置づけることが必要となった。

実習記録様式においても、実習期間と時期に合わせた、継続性と段階制を意識したものに改正する。使用実績わずか2年間ではあるが、前述の実習記録使用の評価と反省を活かし、さらに、他校養成校の実習記録様式も参考にして、以下の通り改正する。

実習記録様式①案 …… 図9

実習記録様式②案 …… 図10

実習記録様式③案 …… 図11

保育所保育実習における実習記録

改正箇所と使用上の説明（図 10）

- ・保育実習Ⅰ（保育所）の1週目は、各年齢のクラスで、観察、参加実習することを前提にしている。
- ・「今日の反省」「明日への課題」の欄をまとめて「感想・反省」欄とした。
その日に観察、参加した保育の感想や実習のねらいに対する反省などを記述する。
- ・「感想・反省」欄に、書きやすいように罫線を入れた。

(2) 実習記録様式②案 図 11 表面

実習記録 様式② 名古屋経営短期大学 子ども学科 氏名

月	日	曜日	天候	行事・その他特記事項	
担当者氏名			組名	年齢	男児 女児 名 計 名
保育のねらい				実習のねらい	
保育の主な内容					
プログラム	環境構成		子どもの活動	保育士の援助・関わり	

改正箇所と使用上の説明（図 11）

- ・保育実習Ⅰ（保育所）の2週目と保育実習Ⅱで使用する。
- ・「主な活動」欄を「保育のねらい」と「保育の主な内容」の欄に変更した。
- ・様式①と同じく「実習のねらい」欄を設けた。
- ・「保育のねらい」と「保育の主な内容」の欄は、指導計画を見せて貰ったり、担任の話や聞いた話をして、理解した「ねらい」や「内容」を実習生の言葉で記述する。

実習記録様式②案 図 12 裏面

※下の空欄には、デイリープログラムの続き、又は環境構成の詳細図等を記入する

感想・反省	

所 見 欄	担当者印

改正箇所と使用上の説明（図 12）

- 上部 3 分の 1 のスペースを空欄とした。
- 上部空欄には、表のデイリープログラムに沿った記述の続きか、又は、表に書ききれなかった環境構成の詳細な配置図などを記入する。
- 下部 3 分の 2 のスペースを「感想・反省」欄とし、書き易いように罫線を入れた。

保育所保育実習における実習記録

(3) 実習記録様式③案 図 13 表面（裏面無し）

実習記録 様式③ 名古屋経営短期大学 子ども学科 氏名

月	日	曜日	天候	行事・その他特記事項
担当者氏名			組名	年齢
		男児 名	女児 名	計 名
実習のねらい				
観察・参加・考察				
<p style="font-size: small;">（設定保育・園外保育・異年令保育・土曜日保育・子育て支援活動等、多様な形態の保育を）</p> <p style="font-size: small;">観察・参加して、気づいたこと・学んだこと・考えたことを記述する。</p>				
所見欄	<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			
※観察・参加・考察の内容に対してのご指導をお願い致します				担当者印

改正箇所と使用上の説明（図 13）

- ・保育所実習Ⅰ（保育実習Ⅰ）の2週目からと保育実習Ⅱにおいて、多様な保育形態や土曜日保育の観察・参加実習に対して使用する。
- ・「実習のねらい」欄を設けた。
- ・「観察・参加・考察」欄の説明文を訂正した。
- ・「観察・参加・考察」欄に罫線を引いた。
- ・所見欄を裏面から表面に移動させ、表面のみとした。

IV. まとめと今後の課題

実習記録様式は、保育実習の中では、注目されていない傾向があるが、実習記録様式は、実習の段階と深く関わって実習の段階をあぶり出すものでなければならないと考える。つまり、学生は、実習で、実習段階に添った実習記録を書くことが求められるが、実習記録様式が実習段階ごとに作成されることで、学生は、必然的に実習段階に添った記録を書くことができるようになる。

今回の、保育所保育実習記録様式改正案では、厚生労働省の通達を受けて見直す実習計画により、既存の保育所保育実習記録様式に比べ、さらにシンプルな物になっている。保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱとの継続性と段階性は、実習記録の記入内容によって、今まで以上に明らかにすることができると思う。そこで肝腎なのは、記録の様式だけではなく、いかに記録を書くかということである。今井和子は、その著「保育に生かす記録の書き方」⁽⁴¹⁾の中で、「書くことは、見ることのトレーニングである」と述べている。この保育実践記録の場合と同じように、実習記録においても、書くことによって子どもを観る力がつくような、実習記録の書き方の指導を保育実習事前指導において充分行うことが、今後の課題である。

さらに、実習の継続性と段階性を効果的に発揮させるには、保育実習Ⅰ（保育所）2週間と保育実習Ⅱ 2週間を同じ園で実習することが望ましく、受け入れ園の理解と協力が必要である。当子ども学科の保育所保育実習のあり方を、期間・時期・指導内容・記録様式すべてに置いて、十分に説明をしなければならないと考えている。また、学生に対しても、保育実習事前事後指導をさらに強化することが求められる。とりわけ、保育実習Ⅰ（保育所）後の1ヶ月間の保育実習事後指導は、保育実習Ⅱに向けての重要な位置づけになる。

このように考えてくると、保育実習における、受け入れ園と学生と養成協議会の教員間の協働が重要な課題として浮かび上がってくる。つまり、この3者が、実習に対して負担感や義務感で取り組むのではなく、期待感や達成感を持って協働して取り組むことが望まれる。その環境をつくり出す具体的な方策の1つが、全国保育士養成協議会専門委員会でも課題となっている、実習記録の平準化である。ブロック別養成協議会の段階では、実習記録の統一化を図っている地域もあると聞いている。先進の養成校間の協働に学びたいと思う。

ささやかな本研究が、愛知県下での実習記録の統一化に向けた、養成校間の協働のきっかけになればと期待している。

保育所保育実習における実習記録

【引用・参考文献】

注1：名古屋経営短期大学子ども学科設置認可申請書（平成18年11月）

注2：全国保育士養成協議会編「保育実習指導ミニマムスタンダード」北大路書房

注3：厚生労働省雇川均等・児童家庭局長「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（雇児発第0227005号 平成21年2月27日）

注4：今井和子著「改訂版 保育に生かす記録の書き方」ひとなる書房（1999年5月出版）

（名古屋経営短期大学子ども学科 准教授）